

第10回旧三商大 OB男声合唱団交歓演奏会



2024年3月2日(土)
14:00 開演 (13:15 開場)

パルテノン多摩 大ホール

ごあいさつ

本日は「旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会」にご来場いただき誠にありがとうございます。今回の演奏会は、コロナ禍のため当初予定より3年遅れの開催となりました。

私ども三つの大学、大阪市立大学(2022年4月より大阪府立大学と統合し現在は大阪公立大学)、神戸大学、一橋大学は三商大(大阪商科大学、神戸商業大学、東京商科大学)と呼ばれた旧制大学のころから深い繋がりがありました。新制大学に移ってからも学生サークルなどの交流が盛んに行われてきました。

その中で男声合唱では大阪市立大学グリークラブ、神戸大学グリークラブ、一橋大学コール・メルケールの三団体が、1953年から「旧三商大交歓演奏会」を東京・大阪・神戸のそれぞれの地で輪番で開催してきました。

その学生たちを中心に、卒業後も男声合唱を楽しもうと結成されたのが現在のOB合唱団です。歌心のあるものは拒まず、年齢制限もありません。ですから現在の団員は三大学の出身者以外の者も加わっており、メンバーの多様化も進んでいます。

「旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会」は、2003年第1回演奏会以降、原則的に2年ごとに開催され、今回でちょうど20年目の第10回演奏会になります。その間高齢化も進み、ステージ上には高齢者が目立ちますが、彼らの心は青春そのもの、人生経験も豊かで合唱をこよなく愛する集団となっています。

そんな合唱団が、メンバーそれぞれの人生を歌声にのせて心を込めて歌います。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

2024年3月2日(土)

南濤会合唱団
東京南濤会合唱団
六甲男声合唱団
東京六甲男声合唱団
マーキュリー・グリー・クラブ



プログラム

エール交換

南漣会合唱団・東京南漣会合唱団 「学生歌」
六甲男声合唱団・東京六甲男声合唱団 「商神」
マーキュリー・グリー・クラブ 「一橋の歌」

1. 南漣会合唱団・東京南漣会合唱団

男声合唱組曲「終わりのない歌」(作詩：銀色夏生 作曲：上田真樹)

指揮：今井啓太 ピアノ：佐藤良子

光よそして緑 / 月の夜 / 強い感情が僕を襲った / 終わりのない歌 / 君のそばで会おう

2. 六甲男声合唱団・東京六甲男声合唱団

「チャイコフスキー歌曲集」より(編曲：福永陽一郎)

指揮：井上和雄 ピアノ：島崎央子

何故 / 騒がしい舞踏会で / 語るなわが友よ / ただ憧れを知る者のみ / ドン・ファン・のセレナーデ

————— 休 憩 15分 —————

3. マーキュリー・グリー・クラブ

サイモン & ガーファンクル より(編曲：増田順平)

指揮：亀井滋 ピアノ：中野マリ

Scarborough Fair (スカボロー・フェア) / The Boxer (ボクサー) / El Condor Passa (コンドルは飛んで行く)
The Sound Of Silence (サウンド・オブ・サイレンス) / Bridge Over Troubled Water (明日に架ける橋)

4. 合同演奏

男声合唱版「唱歌の四季」(編曲：三善晃)

指揮：永井宏 ピアノ：中野マリ、仕入順子

朧月夜 (文部省唱歌 / 作詞：高野辰之、作曲：岡野貞一)

茶摘 (文部省唱歌 / 作詞・作曲者不詳)

紅葉 (文部省唱歌 / 作詞：高野辰之、作曲：岡野貞一)

雪 (文部省唱歌 / 作詞・作曲者不詳)

夕焼小焼 (作詞：中村雨紅、作曲：草川信)

演奏曲紹介

男声合唱組曲「終わりのない歌」

この男声合唱組曲は、2011年早稲田大学グリークラブの委嘱で上田真樹氏により作曲され、第59回定期演奏会で初演された。

どんな曲にしたいかと問われた早稲田グリーのメンバーは「恋の歌が歌いたいです!」と即答したそうである。

この組曲は銀色夏生氏の複数の詩集から詩や詩の一部を選び、ひとつの組曲として編んだものである。

以下に紹介する各曲の歌詞は、それぞれカッコ内に記した詩集から採られており、作曲者によって新たに構成されている。

1. 光よそして緑(「君のそばで会おう」より)

流麗なピアノ伴奏に導かれて歌が始まる。「あなた」と出会い、「この胸に余るほど何を伝えたいのか……あなたほどにまっすぐに進むものはありません」とあなたへあふれる想いが伝わってくる。

2. 月の夜(「春の野原 満天の星の下」「そしてまた 波音」より)

1曲目の曲調からガラッと変わり、冒頭からテノールにより美しい旋律が紡がれる。主人公が「僕たち」になるので、「僕」の想いは「あなた」に伝わり、二人の恋がスタートする。ただ、明るい太陽に照らされるのではなく、「暗い夜の月」が「僕たちのところを照らし」、「暗闇の中にふたりはひっそりたたずんで」いるので、カラッとした爽やかな恋ではなく、この世の中に二人しかいないと考える盲目の恋のような印象を受ける。

3. 強い感情が僕を襲った(「やがて今も忘れ去られる」より)

激しいピアノの前奏から曲は始まる。中間部には変拍子が用いられ、テナー系とベース系が別々の歌詞を奏でる構成となっている。「僕」の感情は砂嵐となり、「僕」は「鉛筆みたいにけずられて小さくなってなくなった」となる。何が理由かは分からないが、「僕」は不安な気持ちに駆られ、自信をなくしていることが伝わってくる。

4. 終わりのない歌(「そしてまた 波音」より)

アルペジオのピアノ伴奏に乗って静かに曲は始まり、終わりに向けてだんだん盛り上がる。自信をなくした「僕」は、「時間をください 力をください 気持ちをください 終わりのない歌をください」と、二人の関係が終わらないように、見えない何かにすがっているように思える。

5. 君のそばで会おう(「君のそばで会おう」「そしてまた 波音」より)

アカペラで曲は始まる。「終わってしまった恋がある」から始まることから分かるように、二人の恋は終わりを迎える。しかし、「僕」は、「僕たちの恋は決して終わりはしない」「なぜなら終わらせないと僕が決めたから」と、相手への想いを断ち切れていない。むしろ、強くなっているようにさえ感じる。「いろんなところへ行ってきているんな夢を見ておいで そして最後に君のそばで会おう」の部分からは、今は自由にさせてあげてください、最終的にまた二人は結ばれるのだという、「僕」の強い願望とひとりよがりな夢が伝わってくる。

東京南漣会合唱団 今井啓太



指揮 今井 啓太

5歳からヤマハ音楽教室に入り、18歳までピアノの個人レッスンを受ける。大阪市立大学入学と同時にグリークラブへ入部、大学3年から4年にかけて学生指揮者を務め、岩城恵一氏の指導を受ける。また4年間湯浅富士郎氏に師事し、発声法と声楽を学ぶ。好きな作曲家はショパン、リスト、ラフマニノフ、コール・ポーター。大阪市立大学経済学部昭和60年卒。



ピアノ 佐藤 良子

都立芸術高校、お茶の水女子大学を卒業後、ミュンヘン国立音楽大学に留学。ピアノ科修士課程にてゲルハルト・オピッツ教授に師事。留学中、オーケストラとの協演やリサイタルを開催、マスター・ディプロムを取得、またワルシャワ、ザルツブルグで夏期マスタークラスを受講、修了演奏会に出演。W.ケンプ財団支援ベートーベン・ピアノ集中講座に招待参加(イタリア)。2019年にはウィーン市内数か所でピアノソロ、声楽伴奏のほか、パイプオルガンによる合唱伴奏を務めた。

南澤会合唱団

毎土曜日夕刻に東大阪市文化創造館に30余名が集まってきます。ピアニストの石幸千照さんとともに、2時間半の楽しい練習が始まります。毎年5月に「四つの男声合唱の集い」、また隔年で、この「旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会」と、「定期演奏会」のステージを持っています。合唱団は、1940年(昭和15年)に旧大阪商科大学の学生が、先輩たちとの合唱を楽しむために作った南澤会が母体です。結成後すぐに戦中戦後の混乱に巻き込まれ、専ら大阪市立大学グリークラブの定期演奏会賛助ステージに立っていましたが、1964年(昭和39年)に演奏会を再開、以来20余回の定期演奏会を開きつつ、今日に至りました。



道頓堀ホテルにて

東京南澤会合唱団

大阪市立大学グリークラブの首都圏在住OBが中心となって2003年に設立されました。当初は大阪市立大学OBのみで構成されていましたが、大阪公立大学の発足を機に現在は他大学出身者にも門戸を広げております。2013年から大阪市立大学グリークラブと深い縁のある兎束康雄氏を客演指揮者として招聘し、原則第2、第4、第5土曜日の午後3時30分～6時の練習を行っています。コロナ禍で休止していた恒例の秋合宿も復活し、その夜に行うささやかな宴も私たちの楽しみのひとつになっています。



合宿会場にて(東京・新木場)

合唱団設立の契機となったのが2003年の第1回旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会です。その後2年に一度、5つのOB男声合唱団が一同に会し、東京、大阪、神戸で開催されるこの演奏会は、百数十人による大合唱を経験できる喜びの場であるとともに励みの場でもあります。

当団は設立20周年を迎えました。2025年1月19日には南澤会合唱団の賛助出演を得て文京区のトッパンホールにて第9回(創立20周年)記念定期演奏会開催を予定しています。

団のモットーである「今こそ青春」の熱い思いを胸に今日も歌います。

20年・10回交歓演奏会によせて

第8回旧三商大OB交歓演奏会の顛末

台風巻き込まれた第8回旧三商大OB交歓演奏会(大阪国際交流センター大ホール/南澤会合唱団主催)の顛末を述べておかねばなりません。

開催予定は2017年10月22日日曜日午後。中心気圧925hPaの超大型台風21号は、すでに朝方、潮岬南方から近畿・東海地方をうかがい、大阪は無気味な小雨模様。主催者(南澤会合唱団)は、開催すべきか、中止すべきか?!

2024年の今なら、前日に交通機関の計画運休も発表され、まず100%開催中止と決定していたでしょうが、当時は午前中迷いに迷った末に、開催と決めました。

来場者からの引きも切らぬ電話問合せにも「開催します」と答え続け、午後2時定刻開演。エール交換、六甲『蝙蝠のワルツ』、MGC『トスティ歌曲集』、南澤会『戦旅』、合同演奏『男声合唱の楽しみ』と順調にプログラムは進み、終演は午後4時すぎ。さすがに入場者は1,000余名の定員に対して、576名にとどまりましたが、1階席は7割程埋まっていたという印象でした。台風は中心気圧945hPaと勢力を弱めましたが、なおも熊野灘沖合を北東へ進行中。

分別ある大人なら、ここで演奏会無事終了、参加者はすぐ帰宅、となるところですが、“永遠の少年合唱団員”たちはとどまることを知らずに午後5時から、お待ちかねの【打上げ】に突入。

ようやく午後7時にお開きのあと、帰京組は新幹線には乗れたものの、首都圏の電車運休で深夜帰宅する者続出!近畿地区在住者は懲りもせず、風雨の中なおも大阪キタ新地に流れる者有り、こちらも帰宅困難者多数……。

ただ大阪市内宿泊者のみ翌日好天の中を無事帰宅しました。「馬はぬれ、牛は夕日の村しぐれ」。

主催者として、まだまだ前途ある各団団員の皆さんを、これから二度とこのような危険にさらさぬよう、肝に銘じて演奏会始末記の筆をおきます。

演奏曲紹介

「チャイコフスキー歌曲集」より

チャイコフスキー(1840~1893年)は、数々のオペラを作曲しており、歌曲の分野でも60曲ほどの優れた作品を遺しています。どれもロマン派の詩情あふれるものです。本日は、そのうち福永陽一郎編曲による5曲をお届けします。ロシア語の歌詞がドイツ語で編曲されていますが、今日は元のロシア語で歌います。

1.「何故?」(作品6の5)

この作品はハイネの詩をロシア語に翻訳したのを使っています。「何故春なのに薔薇はこのように色褪せるのだ」という章句で始まる詩は、青年のやるせない孤独な想いを謳い上げます。その想いに寄り沿うチャイコフスキーの旋律はどこか日本人の感傷性に通じるものを感じさせる見事なものです。

2.「騒がしい舞踏会で」(作品38の3)

詩はトルストイのもので、舞踏会で見染めた女の瞳、声、その楚々とした姿が忘れられない。その幻想に浸りながら、これが愛と云うものだろうかかと自問自答する若者の気持がワルツテンポで優美に歌われます。そのモデルとなった女性は後にトルストイの妻になったミルレルだと云われています。その心情がさぞやと思われる歌曲です。

3.「語るな、わが友よ」(作品6の2)

ハルトマン(独人)の詩をロシア語に訳したこの詩もまた青年に語り掛けた詩です。おそらく失恋に打ちひしがれた友に、「黙っていよう、男なら溜息もつくまい」とバリトンの独唱が語り掛けます。ロシア風の旋律を存分にお楽しみいただきたいと思います。

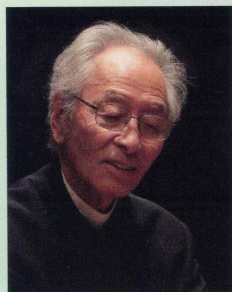
4.「ただ憧れを知る者のみ」(作品6の6)

これはチャイコフスキーの歌曲の中でも最もよく知られた名曲です。ゲーテの「ヴィルヘルム・マイスター」の中のミニョンの詩をメイがロシア語に訳したものに曲がつけられています。この詩にはベートーヴェン、シューベルト、ヴォルフも作曲しています。多くの作曲家を魅了したこの詩は、想い焦がれた女への苦しい憧れを歌ったものですが、チャイコフスキーの歌は、中でも想いにあふれた絶品だと思います。

5.「ドン・ファンのセレナーデ」(作品38の1)

詩はトルストイの劇詩「ドン・ファン」から採られたもので、軽快な3拍子で力強く、ドン・ファンの奔放な情熱が歌われています。モーツァルトのオペラ「ドン・ジョバンニ」を知っていたチャイコフスキーが、その向こうを張って頑張って書いたのではないかと思わせる力作です。皆さんにも楽しんで頂けたらと思います。

六甲男声合唱団 井上和雄



指揮 井上和雄

六甲男声合唱団音楽監督兼指揮者 女声合唱団クール・フレール指揮者。

著書に「モーツァルト こころの軌跡」(サントリイ学芸賞受賞)、「ベートーヴェン 闘いの軌跡」、「ハイドン ロマンの軌跡」、「シューベルトとシューマン 青春の軌跡」(以上音楽之友社)、「ロンドン音楽紀行」(神戸新聞社)、「さらばヘーゲル」、「資本主義と人間らしさ」(以上日本経済評論社)など多数。

また画家としても大阪で毎年個展を開催、プロダ「井上和雄 吉田脩二美術館」で毎月作品を発表



ピアノ 島崎央子

8歳の時に「安川加寿子 公開レッスンオーディション」に最年少で合格。小学4年生、5年生の時に(社)全日本ピアノ指導者協会主催「ピティナ、ピアノコンペティション」で本選入賞。神戸女学院大学音楽学部音楽科を首席、同大学音楽専攻科も首席で修了。

ハンナ・ギューリック・スエヒロ賞受賞。第62回読売新人演奏会出演。

西日本新人ピアノコンクール入賞。

第8回摂津音楽祭で奨励賞受賞。

関西フィルハーモニー管弦楽団、神戸女学院大学オーケストラと協演以外に多くの演奏会に出演。山上明美、大江章子、ゲイリースマートの各氏に師事。

プロフィール

六甲男声合唱団

1954年に神戸大学グリークラブのOBを中心に創設されました。その後他大学のOBや一般の合唱愛好家も入団して、オーソドックスな男声合唱団に成長してきました。

これまでに、フランスには2度、ドイツ、台湾でも演奏旅行を成功させてきました。国内においては隔年開催の定期演奏会、毎年開催の4つの男声合唱団の集い(アンコールの会)、隔年開催の旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会等多彩な活動を続けております。

音楽監督兼指揮者と、持ち味の異なる2名の団内指揮者に率いられ、欧米の古典曲や邦人の作品、さらには世界の民謡、魅惑の映画音楽など、幅広いレパートリーを持っております。

本年2024年は創設70周年となり、12月に記念定期演奏会を開催するほか、ピアニスト島崎央子さんのコンサートへの賛助出演等、多彩な活動を予定しています。



2022年定期演奏会

東京六甲男声合唱団

東京六甲男声合唱団(TRMC)は、2002年在京の神戸大学グリークラブOB(10数名)により立ち上げられました。その後、何度かの東京都音楽祭参加、定期演奏会開催などを経て2022年10月2日設立20年記念定期演奏会を開催するに至っております。この記念演奏会は、KCめぐみ(神戸女学院大学OG女声合唱団)の賛助出演を得て、念願のフォーレのレクイエムをオーケストラ伴奏付きで演奏致しました。大きな感動を共有する事が出来たと自負しております。

2024年4月28日には、第10回定期演奏会を迎えます。KCめぐみに加えて、近い関係にある、マーキュリー・グリー・クラブ(一橋大学コール・メルクールOB)、東京南漕会合唱団(大阪市立大学グリークラブOB)による賛助出演も仰ぐ事しております。

パンデミックも粗終焉した事もあり、練習の活性化、演奏会活動の充実などに取り組んでいきたいと思っております。



20年・10回交歓演奏会によせて

男声合唱と出会い、70年!

昭和30年(1955年)神戸大学入学、すぐに六甲台の部室を訪れてグリー入部。高校では混声合唱で歌っていたが、グリー最初の練習で“男声合唱独特の迫力”に圧倒され感動して、ほぼ70年が経つ。4年間、神戸港を見下ろす校庭芝生などでのパート練習、練習後は愛唱歌をハモリながら外人宿舎を通り、坂を下り六甲駅へ。松江・広島・富山での夏合宿、講堂・神戸新聞会館での定期演奏会、「三商大交歓音楽会」(当時は各大学交響楽団と共演)、卒業後も続く同期仲間(家族も含む)との交流(卒業時には団員数80余名・同期20名)など、我が人生において一番大切な、貴重な時間であった。

その感動も社会人の間は封印せざるを得ず。定年後、人生永久の住処と決めた姫路で「第九合唱団」、「姫路市民合唱団」に入団、再び合唱に浸ることが出来た。2006年、「六甲男声合唱団」に入団、現役時代の先輩、後輩諸兄との再会、“男声のハーモニー”を楽しむこととなった。そして2007年、神戸での「第3回旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会」に出演、以来8回の当演奏会に出演できたことは大変嬉しく、幸せなことと感謝している。コロナによる2年間の空白で幾人かの歌の仲間が逝き、去り、いつの間にか団最高齢メンバーの一人>になってしまい寂しい限りであるが、一方で新しいメンバーも入団していただきここに「第10回演奏会」を迎え共に歌えることに感謝と感動を覚える。

願わくば、今日の演奏会が ご来聴いただいた<男声合唱を愛していただく皆さま>に“喜びと感動”を差し上げることが出来れば……、そして我々メンバーも“歌えることへの感謝と喜び”を味わえることを願いつつ……。

演奏曲紹介

「サイモン&ガーファンクル」より

1964年にデビューし1970年に活動を停止するまでフォーク・ロックを代表するデュオとして活躍したサイモン&ガーファンクルの作品より、増田順平編曲による男声四部合唱で5曲お届けします。

以下、本日演奏する各曲について、古稀を過ぎた筆者の人生観を交えながらご紹介したいと思います。

1. Scarborough Fair (スカボロー・フェア)

ピアノの短い前奏に続き、哀愁を帯びたメロディーで「スカボローの市に行くのかい?」と歌が始まる。昔別れた恋人は今どうしているのだろうか?再び恋人に会うためには「縫い目のないシャツを作る」、「海水と波打ち際のために1エーカーの土地を見つける」等の実現不可能な条件を突きつけられる。人生はうまくいかないもの。決して叶わない恋とわかっていながら諦めきれない。筆者はそんな思いを込めて歌う。

2. Boxer (ボクサー)

ノリの良い速いテンポの曲だが、筆者は人生における孤独、悲哀、挫折、闘志を感じる。めったに自分のことを他人に話すことがなかった少年は、貧乏な生活の中で生きるためにはどんな仕事でもと職を求めたが、最後に就いた職業はボクサー。リングの上で打ち打たれる日々。リングを降りてからも常に頭の中は打ちのめされた自分の不甲斐なさ、屈辱、怒りでいっぱい。でもこれが俺の仕事、闘うしかないのだと闘志を燃やす。

3. El Condor Pasa (コンドルは飛んで行く)

アンデスの寒くて乾いた山を連想させるのんびりとした旋律が哀調を帯びる。

「カタツムリよりスズメがいいな」、「釘より金槌がいいな」等、到底叶うことができない願望。カタツムリはいくら努力してもスズメにはなれない。打たれる釘より金槌のほうがいいに決まっている。でも、カタツムリや釘にもそれぞれの役割がある。人生、たとえ打たれる側にあっても、その役割を全うして真摯に誠実に生きていきたいものである。

4. The Sound of Silence (サウンド・オブ・サイレンス)

トレモロの前奏に続く美しいメロディーで「やあ暗闇くん、古き友よ」と語りかける。「人々はおしゃべりはするけど会話はしていない」、「人々は聞こえているけど聴いていない」という歌詞は、大都会において人と人とのつながりが希薄になりお互いに関心を持たないようにしていることへの漠然とした不安と孤独を表わしているのだと思う。

5. Bridge Over Troubled Water (明日に架ける橋)

力強いピアノの前奏で曲が始まる。「君が弱っていて自分がちっぽけに思えるとき、涙がこぼれるとき、僕がぬぐってあげるよ。僕がそばにいるよ。」と歌う。前曲の紹介で筆者は、「大都会における不安と孤独」と表現したが、対照的にこの曲では、恋人または友人に対する深い愛が高らかに歌われる。こういう曲に接すると“人生まだまだ捨てたものではないな”とつくづく思うのである。

MGC 支倉孝育



指揮 亀井 滋

一橋大学卒業。高校時代から男声合唱に親しみ、大学在学時代一橋大学男声合唱団コール・メルクルの指揮者。在学中は、その傍らロックバンドのヴォーカルを務め、70年代前半のポピュラー音楽にも詳しい。会社勤めを終えた後、2012年にマーキュリー・グリーン・クラブに入団し、2013年から団員指揮者、2022年に常任指揮者に就任。



ピアノ 中野マリ

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程(演奏学)修了。松井滯子、西尾悠美子、遠藤秀一郎、富本陶の各氏に師事。リサイタル、伴奏、室内楽などの演奏活動を行う。中国音楽家協会の招聘による北京、成都、瀋陽など5都市でのリサイタル、アメリカ・ペンシルヴァニア州でのコンサート、NHKテレビ「市民大学」、NHK-FM「午後のリサイタル」など放送での演奏、東京交響楽団とのショパン、モーツァルトの協奏曲の共演が好評を得た。来日演奏家によるマスタークラス、国際コンクールの伴奏、国内外で合唱の伴奏、子どものピアノコンクールの審査員をつとめている。埼玉学園大学、川口短期大学非常勤講師。

プロフィール

マーキュリー・グリー・クラブ(MGC)

マーキュリー・グリー・クラブ(MGC)は、1999年に一橋大学男声合唱団「コール・メルクール」のOBが中心になって結成され、今年創立25周年を迎えました。発足当初から、団員は出身校や合唱経験を問わないことを明確な方針として打ち出し、音楽を愛する人であれば喜んで受け入れてきました。現在の団員数は40余名で平均年齢は70歳台半ばにかかっていますが、遠方から練習に駆けつける人や仕事の時間をやり繰りして練習に参加する人もいて、皆合唱にかける思いは熱く、男声合唱をこよなく愛する熟年合唱団です。



MGCはこれまで良き指導者に恵まれてきました。特に2016年に文化功労者に選ばれた合唱界の重鎮、田中信昭先生には2005年の第4回定期演奏会から2018年の第12回定期演奏会までの間、中断時期もありましたが客員指揮者としてご指導頂き、合唱の持つ奥深さ、音楽をつくる喜びを平易にしかし厳しく教えて頂きました。

演奏活動は今年8月に第15回を迎える定期演奏会を中心に、旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会のほか、海外公演、一橋大学男声合唱団(現役学生)との合同演奏会、老人ホームへの慰問演奏会等を行ってきました。

海外公演は2004年以降ほぼ2年毎に欧州各地にて開催しましたが、2018年のバルト三国公演を最後に、その後のコロナ禍という逆風もあり中断を余儀なくされています。

レパートリーは、日本歌曲や民謡、海外の古典音楽や歌曲など多様ですが、日本の現代作曲家への新曲委嘱を行なう等、幅広くチャレンジしています。また、オペラアリア、カンツォーネ、現代ポップスなどの親しみやすい曲を男声合唱曲へ編曲委嘱しています。

今日の「サイモン&ガーファンクルより」は2022年7月の第14回定期演奏会で演奏しました。男声デュオの曲を増田順平編曲により再編されたもので、サイモン&ガーファンクルのオリジナルとは異なったサウンドを皆様に楽しんで頂ければ幸いです。

20年・10回交歓演奏会によせて

嵐の中の演奏会

2017年10月22日大阪で開催された旧三商大OBの交歓演奏会は、「超大型」で「非常に勢力の強い」と滅多にない形容詞が二つもつく強烈な台風が日本に襲いかかろうとしていたさ中に開かれました。私が朝早く家を出て会場に近い駅に降り立ったころには、台風特有の風と雨が吹き付けていました。が、会場についてみるともうあらかたの団員が顔をそろえているではありませんか。聞けば、大方の人が前日大阪周辺に宿をとっていたとのこと。この用意周到な様に、私はこれより3年前のあの日を思い出していました。

2014年2月8日、私たちは神奈川県立藤野芸術の森で恒例の合宿を行うことになっていました。ところが、この日関東地方には大雪警報が発令されており、交通機関への影響が出ることも繰り返し報じられていました。そして予報通り、各地で20年ぶりの積雪を記録したのですが、合宿には参加予定47人のうち車で来ようとして途中で引き返さざるを得なかった7人をのぞいて、なんと40人が定刻までに集まったのです。そのまじめさ、熱心さにお互い「俺たちクソ真面目すぎるんじゃないか」と笑いあったほど。

今回もあの時と状況が似ているなと思ったのです。ただ、今回はお客さんという外部の人たちがいます。嵐の中わざわざ聴きにきてくれるのだろうか、そのことが心配でした。

が、結果は感動的なものでした。幕が開いた時、すでに客席の7割以上が埋まっていたからです。大阪に上陸するかもしれない嵐を押し、こんなに大勢の方が来てくださったということは、歌う側にとってこの上ない励ましになりました(もちろんその陰で、大阪南湊会の方々が胃袋に穴が開くほどの心配をなされたであろうことは想像に難くありませんが)。

合同ステージ「男声合唱の楽しみ」を歌い終え、アンコールの「上を向いて歩こう」も披露して、会場からの大きな拍手に包まれながら演奏会は無事終了しました。この時、私は超大型台風の接近をしばし忘れていました。

大嵐にもめげずに開かれた演奏会。私はこの日のことを生涯忘れないでしょう。

MGC 府川朝次

演奏曲紹介

「唱歌の四季」— 私は80歳。唱歌大好き。

私は、子供の頃から、音楽の時間と唱歌が大好きでした。これまでに声楽家の歌う素晴らしい唱歌をたくさん聴いてきました。でも、自分では口ずさむことはあっても、聴衆の前で唱歌を歌うことはほとんどありませんでした。ただ一度だけ学生時代に、「田舎の四季」のタイトルで、「いなかの四季」「夏は来ぬ」「村祭」「冬の夜」などをメドレーにして、混声4部に編曲された合唱曲をととても楽しく歌った記憶があります。童謡、唱歌には四季を歌った曲がたくさんあります。本日は4曲の文部省唱歌と1曲の童謡で構成された三善晃編曲による男声合唱版「唱歌の四季」をお届けします。大好きな唱歌と童謡を歌うことができ、とても幸せです。

最初の4曲は「朧月夜」「茶摘」「紅葉」「雪」で、それぞれ春、夏、秋、冬の曲ですが、最後の1曲「夕焼小焼」は、アンコール用に編曲され、四季に無関係ながら組み入れられたそうです。編曲者の三善晃は、1996年の混声版「唱歌の四季」CDの解説書において、「編曲は、原曲に対する実感と愛情がなければ。歌う人達を共感の域にたかめなくては。」と、述べています。

私達は、本日150名余りの高齢者による男声合唱で「唱歌の四季」を歌います。編曲者の思いどおりに、原曲に対する実感と愛情を表現できるでしょうか。気持ちの良いメロディーもたくさんありますが、突然の転調におどろき、指揮者からは「おだやかに、ていねいに、速いテンポには遅れずに、リズムは軽やかに、強弱をしっかりと」などの注文がとびます。

そもそも、多人数の斉唱(ユニゾン)はそろいにくく、まして、高齢者は微妙に声が震え、音程が下がりやすくなっています。そのうえ、リズムも重く、音色も暗めで、楽しそうに聴こえないなどと、指揮者から繰返し指摘されました。でも、そこは皆ベテラン合唱団員です。指摘された箇所を何度も繰返し練習することにより、皆様には、明確に私達の原曲に対する実感と愛情をお届けできるものと思っています。

「唱歌の四季」の各曲は、私達の子供世代までは、誰でも歌えるでしょう。孫世代はどうか気になり、私の地元(埼玉県伊奈町)の幼稚園、小学校に尋ねてみたところ、6年生までには、この5曲は教えていますとのことでした。今の小学校6年間の音楽の教科書を見ると、まだまだ私達の知っている多数の童謡、唱歌が掲載されていて、嬉しく思うとともに安心しました。これからもたくさんの素晴らしい童謡、唱歌が歌いつがれていくことを願っています。

本日は、皆様もご一緒に心の中で歌ってくださっていると祈念しながら、心を込めて歌いたいと思います。

MGC 清水政男



指揮 永井 宏

マーキュリー・グリー・クラブ指揮者。
一橋大学卒業。在学時代一橋大学男声合唱団
コール・メルクルの指揮者。指揮法を故荒谷
俊治氏(元日本指揮者協会会長)、故浜田徳昭氏
に師事。ピアノを東義道氏に師事。アマチュア
のオーケストラや合唱団の指揮に豊かな経験
を持つ。コールアネモネ名誉指揮者。三井住友
海上管弦楽団名誉指揮者。マーキュリー・グ
リー・クラブの創立から現在まで、24年間に亘
る中核的存在。

ピアノ 中野マリ プロフィールはP.8をご覧ください。



ピアノ 仕入 順子

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。柳澤美枝
子、片山敬子の各氏に師事。JML入野義朗音楽
研究所において平尾はるな氏の現代音楽演奏法
講座を受講。ボワチエ夏期音楽大学にてヴラ
ド・ベルルミュテル氏に、ザルツブルク夏期国際
音楽アカデミーにてクロード・エルフェ氏に師事。
京都フランスアカデミーにて、ジョルジュ・ブリュ
ッセルマッシュェールおよびフセイン・セルメット各氏
のマスタークラス修了。現在伴奏のほか幼児教
育の専門学校において音楽表現の指導に携わる。
2005年より戸張勢津子氏とデュオ活動を始め、
フランスのデュオ作品を採り上げたコンサートシ
リーズは今年で17回目を迎える。当摩泰久作品
集CDにおいて当摩氏編曲の日本の歌曲を収録。

旧三商大 OB 男声合唱団交歓演奏会の記録

開催日	会場	演奏曲目	指揮	
第1回	2003.06.21	調布市グリーンホール	六甲：Albert Duhaupas「MESSE」より 南漣会：Gustav Mahler「さすらう若人の歌」(編曲：福永陽一郎) MGC：「スペインの歌」(編曲：石丸寛他) 合同：高田三郎「水のいのち」	井上和雄 三栖 隆 永井 宏 永井 宏
第2回	2005.03.19	大阪国際交流センター・大ホール	六甲：G.B.Martini「IN MONTE OLIVETI」他(モテット) 南漣会：清水脩「月光とピエロ」 MGC：「ロシア民謡」(編曲：荒谷俊治他) 合同：多田武彦「柳川風俗詩」	井上和雄 三栖 隆 永井 宏 今西弘一
第3回	2007.11.17	神戸新聞松方ホール	南漣会：ブラームス「ジプシーの歌」(編曲：福永陽一郎) MGC：「イタリヤの歌」(編曲：吉岡弘行) 六甲：シューベルトの男声合唱曲「Die Nacht」他 合同：フォーレ「レクイエム」より(編曲：吉岡弘行) アンコール：マルシュネル「Standchen(小夜曲)」	今西弘一 永井 宏 井上和雄 井上和雄 井上和雄
第4回	2009.11.29	太田区民ホール・アプリコ大ホール	南漣会：佐藤 真「男声合唱のための組曲 旅」より 六甲：ドヴォルザーク「男声合唱とピアノのためのジプシーの歌」 MGC：「ウイーンの歌」(編曲：荒谷俊治他) 合同：清水脩「月光とピエロ」 アンコール：「月光とピエロとピエレットの唐草模様」	三栖 隆 井上和雄 永井 宏 永井 宏 永井 宏
第5回	2011.11.27	大阪国際交流センター・大ホール	MGC：J.シュトラウスII「蝙蝠のワルツ」(編曲：蒔田尚昊) 六甲：「望郷 ふるさと～祖国によせて」 南漣会：高田三郎「水のいのち」 合同：SPIRITUALS(黒人霊歌)(編曲：Bill Anderson) アンコール：「Till We Meet Again」「遥かな友に」	永井 宏 井上和雄 山田 稔 山田 稔 山田 稔
第6回	2013.11.30	神戸文化ホール・大ホール	MGC：「カンツォーネの名曲」より(編曲：蒔田尚昊) 南漣会：鈴木憲夫「二度とない人生だから」 六甲：ケルビーニ「レクイエム 二短調」より 合同：ワーグナー「巡礼の合唱」「水夫の合唱」 アンコール：ヴェルディ 行け金色の翼に乗って(「ナブッコ」より)	永井 宏 山田 稔 井上和雄 井上和雄 井上和雄
第7回	2015.11.21	ティアラこうとう・大ホール	南漣会・東京南漣会：廣瀬量平「海鳥の詩」 六甲・東京六甲：珠玉の名曲集「Let Me Call You Sweet Heart」他 MGC：「オペラ・アリア集」(編曲：吉岡弘行) 合同：高田三郎「水のいのち」 アンコール：ヴェルディ 行け金色の翼に乗って(「ナブッコ」より)	山田 稔 井上和雄 永井 宏 永井 宏 永井 宏
第8回	2017.10.22	大阪国際交流センター・大ホール	六甲：J.シュトラウスII「蝙蝠のワルツ」(編曲：蒔田尚昊) MGC：「トスティ歌曲集」より(編曲：北村協一・安彦善博) 南漣会・東京南漣会：高田三郎 男声合唱組曲「戦旅」 合同：「男声合唱の楽しみ」Tom Gentry「Sound Celebration」他 アンコール：中村八大「上を向いて歩こう」(編曲：北村協一)	井上和雄 永井 宏 山田 稔 宮内 泰 宮内 泰
第9回	2019.10.05	神戸文化ホール・大ホール	MGC：フォーレ「レクイエム」より(編曲：吉岡弘行) 南漣会・東京南漣会：佐藤真 男声合唱組曲「蔵王」 六甲・東京六甲：デュオーバ「ミサ・ソレムニス」 合同：Mitch Leigh「ラマンチャの男」セレクション アンコール：見岳章「川の流れるように」(男声合唱版)	永井 宏 宮内 泰 井上和雄 平林 陽 平林 陽

第10回 旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会 出演者

南澤会合唱団

T1	神代 一徳 森本 眞一	寶木 健一	田中 宏和	長田 幸一郎	福家 伸治	松波 謙至
T2	尾崎 納 吉田 教昭	白井 清貴	富増 和彦	野津 直樹	長谷部 資朗	宮内 泰
B1	瀧井 尚志 横田 卓郎	辻 秀郎	出口 順三	花澤 光正	松井 繁明	安井 永
B2	赤崎 弘平 松村 喜裕	今道 隆夫 和田 昭夫	扇田 豊	海谷 叔伸	曾家 義晴	田中 彰一

東京南澤会合唱団

T1	坂井 和久 杉村 明	稲留 雄一 鎌田 禮章	浅野 敏郎	岡本 直久	北 正己	望月 豊
T2	大内 一 今村 肇	西村 文秀	鶴田 観次郎	平手 彰	三輪 剛	野津 直樹
B1	伊藤 誠吾 米花 務	今井 啓太 富増 和彦	梶谷 俊一	木田 豊	祖父江 浩之	宗像 弘信
B2	磯田 卓	井上 嘉雄	諏訪部 和彦	北野 友一	柚木 弘文	吉岡 稔

六甲男声合唱団

T1	西本 憲生	後久 義昭	平林 陽			
T2	板敷 勝	大隅 国雄	加藤 雅夫	白川 秀司	寺井 洋一	
B1	大谷 遷	佐々木 道治	藤澤 隆博	前田 豊治	松井 嘉和	村田 一郎
B2	井上 和雄 藤田 一幸	奥村 隆 望月 薫博	柏木 将男	佐藤 敏弘	坪内 啓二	永井 哲郎

東京六甲男声合唱団

T1	飯塚 和憲	上田 尚樹	進藤 宏	武田 勝	竹本 鉄三	益子 正稔
T2	池田 信彦	鶴原 誠	横川 裕司	吉澤 聡一		
B1	浅井 彰二郎 團野 廣一	上山 維介 土岐 忠弘	小林 健一郎 溝口 正平	五味 信二	静川 靖敏	田邊 弘幸
B2	木谷 元彦	樽井 一仁	長野 一字	古川 方理		

マーキュリー・グリーン・クラブ

T1	石林 紀四郎 支倉 孝育	岩澤 英輝 益子 正稔	小室 滋 守口 毅	田口 和義	角田 清	中尾 丈夫
T2	池田 信彦 平野 真	石井 一成 深堀 清隆	一政 讓 松田 次郎	亀井 滋	佐藤 章	清水 政男
B1	石原 隆 岸本 保 光瀬 靖彦	井上 清彦 黒田 修一	上田 健 立川 昭夫	片山 修 徳山 巖	加藤 孝雄 藤本 淳三	菊池 亨 藤原 尚
B2	泉原 昭夫 橋本 民生	酒井 宣彦 府川 朝次	島本 啓太郎 村永 知大	下村 肇 矢口 和彦	鈴木 堅仁	野老 正明

一緒に歌いませんか？ 気楽にご連絡ください！

南澤会合唱団 <https://male-choir-nanreikai.jimdo.com/>

東京南澤会合唱団 <https://tokyonanreikai.weebly.com/>

【連絡先】 宗像弘信 mrhmunakata@gmail.com

六甲男声合唱団 <https://rokkomc.web.fc2.com/>

【連絡先】 永井哲郎 tetsunaga9845@yahoo.co.jp

東京六甲男声合唱団 <http://tokyorokkomc.com/>

【連絡先】 武田 勝 takeda_masaru_1031@yahoo.co.jp

マーキュリー・グリーン・クラブ <https://jfn.josuikai.net/circle/mgc/>

【連絡先】 片山 修 osamu.katayama.psx@gmail.com